

# 平成19年度 分野チェックリスト

分野名	自律・教育分野		分野番号	5
分野担当部	教育委員会事務局	関連部	区民生活部	

## 杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化

番号	指標名	単位	指標値			目標値	
			16年度	17年度	18年度	22年度末	
1	学力調査で設定した目標に達している児童・生徒の割合	%	70.4	70.7	70.4	75%以上	
2	ボランティアに参加したことがある区民の割合	%	21.4	22.0	23.8	30.0	
3	不登校児童・生徒数	人	202	247	277	170	
4	いじめや仲間はずれがなく生活していると感じている子どもの割合	%	75.0	70.9	70.9	80.0	
5	区民1人あたりの文化的生活時間	時間	平日1時間40分 休日2時間13分	平日1時間53分 休日2時間16分	平日1時間45分 休日2時間51分	平日2時間15分 休日3時間00分	

指標の状況、定義は裏面をご覧ください。

## 杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化の状況(分析)

1 区独自の学力等調査(小学校3年生から中学校3年生)における平均達成率(設定した目標を達成した児童・生徒の割合)を指標値としている。3ヵ年実施してきた結果、16年度との比較では横ばいとなっている。しかし、東京都の学力調査結果で見ると、小学校・中学校ともに上位に位置し、東京都平均との比較でもかなりの好成績を上げている。区学力等調査3ヵ年の傾向から、児童・生徒の正答率の低い単元などの傾向がつかめてきたとともに、同時に行った「学習・生活についてのアンケート」とのクロス集計など詳細分析を行い、児童・生徒の学力や生活習慣などの課題に効率よく、的確に対応していく。さらに、今後も教職員研修や教育研究奨励、学力向上調査委員会の活動等を充実し、教員・学校の指導力向上を図っていく。また、少人数学習の機会充実や教員加配等により、基礎的・基本的な学力の定着に取り組むことにより、平成22年度末の目標値達成を目指す。

2 平成15年度から4カ年連続で指標値が増加している。区では、大きな柱の一つに「地域ぐるみで教育立区」を掲げ、教育に支援を惜しまない地域社会の実現に向けて取り組んでいる。平成18年度までに学校支援本部を5校に設立し、地域運営学校を平成19年4月に2校指定し、計6校とするなど、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを着実に推進している。これらの取り組みの拡充により、保護者や地域住民の学校運営の参画が促進されていると考えられる。また、地縁組織である町会・自治会、NPO等をはじめとした地域住民や地域の活動組織が主体となった自主的な活動も活性化していることや交流事業を行うNPOやボランティア団体が増加していることなどが増加の一因と考えられる。区は、全ての人々が、生涯現役で、各々の個性や能力を発揮しながら、活力ある地域社会を築いていくことを区政の柱としている。区民やNPOなどの様々な団体が自主的・多面的に地域で活動しやすい環境を整備・支援していくとともに、すぎなみ地域大学の卒業生をはじめ、団塊の世代への支援策として、経験や知識を活かして地域活動に参加できる仕組みを整備充実していくことにより、「ボランティア活動をしてみたいと思うがしたことはない」と意欲のある区民の割合が46.6%となっていることから、今後、一層ボランティア活動に参加する区民の増加が期待される。

3 不登校児童・生徒数については、平成17年度の増加に続き18年度もさらに30名増加した。不登校の直接のきっかけは多岐にわたっているが、「無気力など本人に関わる問題」「親子関係をめぐる問題」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が多くを占めており、不登校人数の増加の大きな要因と考えられる。一方で、不登校解消率(不登校人数に対して、指導によって登校できるようになった人数の割合)は、平成16年度の13%、平成17年度24%から平成18年度は30%まで増え、不登校対策の効果も表れている。平成19年度は、済美教育センター内に、校長OBに心理や社会福祉士、専門医などの専門スタッフを加えた、いじめや不登校などの緊急課題を解決する専門チーム「教育SAT」を設置し、より手厚い対策を実施していく。さらに、スクールソーシャルワークの推進や適応指導教室の見直しをはじめとする不登校対策の再構築・充実に取り組んでいる。

4 指標値は「学校評価アンケート」の結果から算出しており、平成16年度まで増加傾向の数値で推移していたが、平成17年度は減少へと転じ、平成18年度も横ばいの結果となった。依然、いじめや仲間はずれに対する何らかの不安を抱く児童・生徒が少なからずいる可能性がある。学校教育において、いじめは重要課題であり、学校の相談体制の充実や生徒会活動・学級活動等での指導については、多くの学校で取り組んでいる。平成18年度スクールカウンセラーの相談件数がかなり増加しているが、今後も教育相談の機能強化、創意工夫のある教育指導などにより、児童・生徒の不安意識を解消し、「学校が楽しい、充実している」と感じる児童・生徒が増えるよう取り組んでいく。

5 文化的な生活時間は、平成15年度から3カ年連続で平日・休日ともに増加していたが、18年度は平日が微減し、休日が大幅に増加となった。趣味や娯楽活動、スポーツ活動に取り組んでいる区民が増えており、休日を利用し、それらの活動に取り組んでいる区民が増えていると考えられる。

区文化事業への参加者が前年度比約25%増、後援・共催により実施した事業への参加者が前年度比約45%増と多くの区民が高い関心を示し、文化・芸術等の事業に参加している。平成18年度に杉並公会堂がリニューアルオープンしたことにより、文化活動の発表や音楽鑑賞などの場が大幅に増えていることも要因と考えられ、優れた文化芸術に触れる機会が増えていると考えられる。「歩きながら、元気と文化が生まれる街、すぎなみ」の実現に向け、杉並公会堂や21年3月開設予定の杉並芸術会館を拠点とした地域文化の創造、発展を目指すとともに、区民の生涯学習環境の充実については、指定管理者制度を導入し、新しい時代の体育施設、図書館の創意と工夫に基づいた運営を推進するとともに、より一層のサービス向上に取り組み、区民一人ひとりの文化的な生活時間の向上を図っていく。

チェックリストの状況(参考)

番号	名称	関連データ(他自治体との比較等)
	定義	
1	学力調査で設定した目標に達している児童・生徒の割合	【18年度】<平均正答率合計> 小学校5年生(4教科:国語、算数、社会、理科) 中学校2年生(5教科:国語、数学、英語、社会、理科)  杉並区 東京都  小学校 318.4 小学校 304.3 中学校 373.5 中学校 357.1
	平成18年度杉並区立小・中学校学力調査において設定した目標を達成した児童・生徒の割合(杉並区学力向上委員会報告書より) 【関連データ】 (都教育庁:「平成18年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果より)	
2	ボランティアに参加したことがある区民の割合	【18年度】  杉並区 東京都(15年度)  23.8% 28.5%
	区民アンケートで、『あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか』に『現在活動している』『以前活動をしてはいたが現在はしていない』と回答した人の割合 【関連データ】 (杉並区区民意向調査より) (都教育庁:東京の教育に関する都民意識調査より)	
3	不登校児童・生徒数	不登校児童・生徒(年度に30日以上欠席)の出現率【18年度】  杉並区 東京都  小学校 0.47% 小学校 0.34% 中学校 3.10% 中学校 3.24%
	年度に30日以上欠席(病気等の欠席を除く)した児童生徒の人数 【関連データ】 (都教育庁:平成18年度における児童・生徒の問題行動等の実態についてより)	
4	いじめや仲間はずれがなく生活していると感じている子どもの割合	1校あたりのいじめ認知件数 (いじめについては定義の解釈が多様であり、また認知も主観による部分が大いため、単純に他自治体との比較は難しい) 【18年度】 杉並区 東京都  小学校 2.36件 小学校 2.89件 中学校 6.70件 中学校 4.30件
	済美教育センターで取りまとめた「学校評価アンケート」による、小・中学校とも『いじめや仲間はずれなどがなく、友達どうし仲良く生活していますか』との問いにおいて肯定的な回答をした児童・生徒数の割合を%で表した。 【関連データ】 (都教育庁:平成18年度における児童・生徒の問題行動等の実態についてより)	
5	区民1人あたりの文化的な生活時間	
	区民アンケートで、『あなたが取り組んでいる趣味や習いごと、社会活動はありますか』に、『趣味・娯楽活動』『教養・学習活動』『スポーツ活動』と回答した人の1日にかかるだいたい時間の平均値(平日・休日別)。  (杉並区区民意向調査より)	
特記事項		